

PRAEVIDENTIA DAILY (11月12日)

昨日までの世界：ドルが対円、対豪ドルで続伸

昨日は米国（債券市場）が休場で市場に方向感を与えるような材料も殆どなかったため、主要為替相場も概ね小動きとなった。ドル/円は朝方発表された本邦9月経常収支が季節調整済み計数で-1,252億円と市場予想比若干大きな赤字となり、発表後にやや円安に振れる局面がみられたものの持続せず、その後はドルが軟化し一時99円を割り込んだ。もっとも、欧米時間にかけて反発し99.30円へ上昇、GDP発表後の高値（99.41円）には達しなかったものの、雇用統計後の高値（99.22円）を若干上回った。

対豪ドルでも雇用統計後の米ドル高の動きが継続、豪ドル/米ドルは0.9345ドルへ続落した。中国では週末発表の主要経済指標は概ね市場予想通りで比較的高い伸びが継続、短期金利は更に沈静化し株価も寄り付き後に続落した後持ち直しプラスで引けているが、新規融資額が5,061億元と前月および市場予想を下回ったことが当局の引き締め姿勢を示唆し豪ドルのセンチメント悪化に繋がったかもしれない。

他方、ユーロは特段の材料がない中で1.34ドル台へ反発し、雇用統計発表前の水準をほぼ回復した。今週木曜発表のユーロ圏3Q GDPが下振れすれば追加利下げ観測からユーロ続落の可能性もあるものの、振り返れば10月25日に1.3832ドルの高値を付けた後、31日発表のユーロ圏HICPの大幅下振れで利下げ観測が急速に高まり、実際の利下げ実施を経て7日に1.3296ドルまで既に4%の大幅下落を示していたため、一旦利益確定のユーロ買戻しの動きが出易かったとみられる。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.1	+0.00	+0.00	-0.00	-0.00	+0.00	+0.00	+0.1	+1.3	+0.4	+1.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株差
ユーロ/ドル	+0.3	-0.00	-0.00	+0.00	-0.00	-0.00	+0.00	+0.6	+0.1	+1.3	-0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	+0.02	+0.02	+0.00	+0.04	+0.04	+0.00	+0.3	+0.1		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.3	+0.04	+0.04	+0.00	+0.09	+0.09	+0.00	+0.0	+0.1	+0.2	+0.1
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.0	+0.02	+0.02	+0.00	+0.06	+0.06	+0.00	+0.0	+0.1	+0.2	+0.1
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.0	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.0	+0.1	+0.4	+0.1

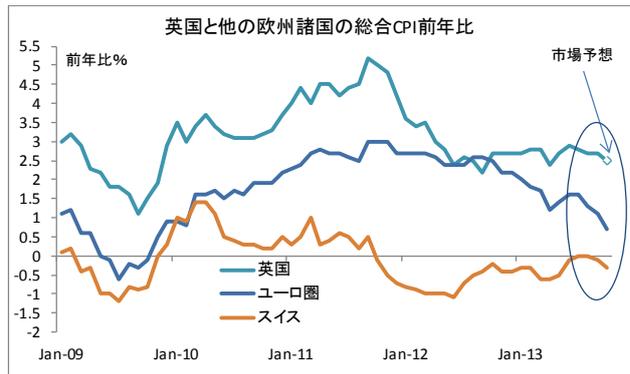
(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：ディスインフレはドーバー海峡を渡るか

本日の相場材料としては、経済指標発表が少なく、①Fisher ダラス連銀総裁発言（17:00、タカ派だが最近ややハト派化、投票権なし）、②Nowotny オーストリア中銀総裁発言（17:25、ややタカ派）、③英10月CPI前年比（18:30、前年+2.7%、市場予想+2.5%）、④Weidmann 独連銀総裁発言（19:00、タカ派）、⑤Asmussen・ECB 理事発言（1:00、ややタカ派）、⑥Kocherlakota ミネアポリス連銀総裁発言（3:00、ハト派、投票権なし）、⑦Lockhart アトランタ連銀総裁発言（3:50、ハト派、投票権なし）、⑧Wheeler・RBNZ 総裁議会証言（7:00）、など、中銀高官発言が多い。

最も市場を動かしそうなのは英CPIだ。BoEは8月にフォワードガイダンスを発表し政策金利を長期間据え置く旨を宣言したが、足許で景況感が明確に改善傾向を示していたこととインフレ率が高いことが、フォワードガイダンスの信ぴょう性を低下させ債券堅調に繋がっていた。今回のCPIは前年比2.5%へ鈍化が予想されているが、依然としてBoEのインフレ目標の中心である2.0%を大きく上回っており、かつ市場では今後来年1-3月期にかけて2.4%程度までしか低下しないとみられており（下図を参照）、少なくともインフレの面からは追加緩和が視野に入ることはなく、どちらかという市場予想を上振れた場合の方が、特に対ユーロや対円でポンド高に繋がりが易いとみられる。但し、下振れする場合も、ユーロ圏だけでなくスイスでも足許インフレ率の低下傾向がみられている中で（下図を参照）、欧州全般の需要の低調からくるインフレ圧力低下が意識さ

れると、ポンド強気派がやや減少しポンド売りが強まるきっかけになるかもしれない。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。

ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。